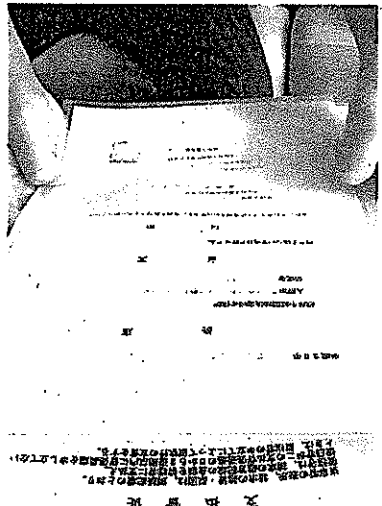


官報から無断転載 初の停止命令

破産者情報サイト 閉鎖も不安なお

法令を公布する国の機関誌「官報」掲載の自己破産者の個人情報をも、無断転載したとみられるサイトが二つあった。誰でも見ることができ、状態になっており、掲載者が削除を求めると仮想通貨を要求することも。政府の個人情報保護委員会が閉鎖を求め初め停止命令を出したところ、両サイトは閉鎖。しかし過去にも同様のケースがあり、破産者らは今後も繰り返されるのではと懸念する。(後藤泰良、市原研吉)



削除に仮想通貨要求も

関係者によると、閉鎖したのは「モンスターマップ」と「自己破産・特別清算・再生 データベース」。両サイトには計数万人分の破産者の名前と住所が掲載され、再生データベースは検索も可能だった。インターネット版官報を無断転載したとみられる。

委員会は昨年10月、両サイトの存在を把握。「破産情報を出されて就職できなかった」「周りにいつ気づかれるか不安」など、少なくとも数百件の相談が寄せられた。再生データベースについては、「問い合わせフォームで削除を求める」と、仮想通貨を送るよう求められた。

破産決定の書類を手にする男性
!!大阪市(画像の一部にモザイクをかけています)

ママ友に姓名明かせず ■「もう出さないで」

関西の会社員の女性(34)は昨年、生まれてくる子どもの姓名判断のために自分の名前を調べたところ、自分の破産情報がインターネットのサイトに載っていることを知った。

20歳のころ、着物を70万円ほどで強引に買わされた。「返したい」と、販売会社と交渉中にもかかわらず倒産。数回ローンを払った

が、そこから請求もなくなったため、放置していた。十数年経ち、結婚して妊娠がわかったところ、債権回収業者から延滞金を含め約100万円の請求がきた。

「子どもを抱えて借金を払い続ける気力はなかった」。破産を選んだ。サイトに旧姓や旧住所も掲載。そういうえば、産休に入るまで喜んでくれていた元上司や同僚からの連絡は途絶えている。「気づかれたんだ」。そう思うと友人とも疎遠になった。

「えっ、何これ」
大阪市内の40代男性は今年初め、自分の名前を検索すると住所が表示された。「モンスターマップ」だった。破産前の借金は約2300万円。うち約1900万円は奨学金で、大学や大学院で学ぶために借りた。残りはクレジットカード払いの生活費という。男性も後継サイトが出てくることを心配する。

「子どもを抱えて借金を払い続ける気力はなかった」。破産を選んだ。サイトに旧姓や旧住所も掲載。そういうえば、産休に入るまで喜んでくれていた元上司や同僚からの連絡は途絶えている。「気づかれたんだ」。そう思うと友人とも疎遠になった。

「子どもを抱えて借金を払い続ける気力はなかった」。破産を選んだ。サイトに旧姓や旧住所も掲載。そういうえば、産休に入るまで喜んでくれていた元上司や同僚からの連絡は途絶えている。「気づかれたんだ」。そう思うと友人とも疎遠になった。

「子どもを抱えて借金を払い続ける気力はなかった」。破産を選んだ。サイトに旧姓や旧住所も掲載。そういうえば、産休に入るまで喜んでくれていた元上司や同僚からの連絡は途絶えている。「気づかれたんだ」。そう思うと友人とも疎遠になった。

「子どもを抱えて借金を払い続ける気力はなかった」。破産を選んだ。サイトに旧姓や旧住所も掲載。そういうえば、産休に入るまで喜んでくれていた元上司や同僚からの連絡は途絶えている。「気づかれたんだ」。そう思うと友人とも疎遠になった。

「子どもを抱えて借金を払い続ける気力はなかった」。破産を選んだ。サイトに旧姓や旧住所も掲載。そういうえば、産休に入るまで喜んでくれていた元上司や同僚からの連絡は途絶えている。「気づかれたんだ」。そう思うと友人とも疎遠になった。

官報掲載「切り分け 考えるべき」

閉鎖した両サイトはインターネット版官報を無断転載したとみられているが、なぜ官報に破産者の情報が掲載されるのか。破産を申し立てる際には裁判所に債権者のリストを提出す

る。財産がある場合は債権者間で分配されるが、リストから漏れた債権者がいると、その手続きに関与する機会を失うため、破産法に基づき官報で周知している。官報を編集、印刷する国

立印刷局によると、電子化して検索できるようにした有料サービスは2001年開始。破産者情報も1947年5月から全データを提供。名前や住所を検索できる。破産問題に詳しい加納雄二弁護士は「大半の債権者は破産手続きの開始を知らされるので、個人情報を紙やネットの官報に

載せる必要はない」。一橋大学大学院の山本和彦教授(破産法)は、かつて破産は「悪いことだから官報に掲載されても仕方ない」という懲罰的な側面もあったと指摘。「破産は再出発のためである。破産者情報は、官報から切り分け、別な方法で知らせることも考えるべきだ」